

事物 級珠 部草 藥通 鰐正字

鱈ハ俗字鯧同鱈、本草李時珍鯧音旦誤ト正字通ニ言ヘリ、ウツボハ南海ニアリ、鱈ナク海鰐鱈ノ形ニ似テ、黃質黒斑目至テ小シ、シノ歯甚銳ナリ、漁人コレヲ畏ル、賤民捕食フ、大ナル者ハ徑三寸ナル者アリ、一種コメウツボハ全身紅色ニシテ深紅斑アリ、海中ニ游泳スルモノ甚美觀ナリ、此條ヲアナゴト訓ズ、穩ナラズ、

〔大和本草十三海魚〕ナキリ 長七八寸身甚薄シ、横一寸許首小ナリ、ウナギニ似テ扁シ、尾ハ如鯿、又似鮆紫斑アリ、素質也腹赤シ、子バリ多シ、不可食、藻ノ中ニスム、クサヒト云魚ナリ、ナキリノ類ナリ、ナキリヨリ廣シ、

〔魚鑑下〕ゑらぶ 一名海どせう、狀どせうに似て扁く、全身黃色、背に黒斑あり、粘滑もどせうに同じ、まへは食ふ人なし、近來は民間の食となりぬ、味ひよけれど下品なり、

〔世事百談〕ゑらぶ 鰐

琉球よりわたる三味線の皮は、實は海蛇皮にはあらず、かの國に産するゑらぶとて漢名を慈  
鰐と云ふもの、皮なり、ゑらぶは島の名にて、その島は薩摩と琉球との間にありて、口のゑらぶ、  
中のゑらぶなど、唱へて、二つ三つある島と見えたり、中山世譜などにも島の圖はありとおぼ  
ゆ、この島に住むゆゑに、名づけてゑらぶといへりとぞ、いと得がたきものにて、常に島の岩窟  
に海よりあがりて住み、ことに冬にいたれば、かの鰐の總身へ、落葉をまとひつけて、窟の中にか  
くれ臥す、そこへは島に住める人といへども、なかへ往きがたきはしき海岸なり、琉球より  
は十里ばかり、南にイトマンといふ島あり、その島人つねに裸にて、海中を自由に往來すといへ  
り、その島人が楠の獨木船に乗り、かのゑらぶ島にわたり、小刀を携へ、水中より海岸の窟にのぼ  
り、かの鰐をとらへて、刀にてさしとほしくして取るといへり、小さきは二三尺、大きなるは壹